

中学生の自尊感情と親の関わり意識との関連について

学校教育学専攻
臨床心理学コース
M09084C
寺田 裕

研究2

問題と目的

近藤(2010)は Rosenberg, M(1965)のいうのような自分を「とてもよい(very good)」と捉える自尊感情を「社会的自尊感情」(「SOSE」)、自分を「これでよい(good enough)」と捉える自尊感情を「基本的自尊感情」(「BASE」)と名づけ、両者を「峻別して測定」する自尊感情測定尺度、「SOBA-SET-TR」を作成し、小学生を対象に調査を行っている。

蘭(1992)は自尊感情を形成する要因について、「両親とのかかわりを基礎として」形成されると述べている。そこで中学生の自尊感情とパフォーマンスを測定する尺度をもとに、「BASE」「SOSE」と両親からの養育との関連について考察した。

研究1では自尊感情に影響を与えられ親の養育態度について問う尺度を作成し、研究2ではその尺度と近藤(2010)の「SOBA-SET-TR」を用いて自尊感情と養育の関連を検討した。

研究1

項目収集のため、「心が傷つく・ほっとする親からの言葉、行動」アンケートを実施。(対象は近畿地方の公立中学校に通う中学生 1~3年、各学年約 170名)

その結果と、臨床心理士や教師に挙げてもらった項目を踏まえて41項目の質問紙「保護者の関わり意識尺度」を作成し、既存の養育尺度(「親子関係診断尺度 EICA」40項目、「HEQ_A2」32項目のうち性的虐待等の項目を削除した12項目)を用いて質問紙調査を実施した(対象は近畿地方の公立中学校に通う中学生 1~3年、計429名うち有効回答352名)。

調査で得られた「保護者の関わり意識尺度」を因子分析(プロマックス回転)した結果、5項目をのぞく36項目において3因子が抽出された(TABLE)。ポジティブな項目で構成される第1因子を「肯定的な関わり」因子、「今からしようと思っていたことについて『～しなさい』と言われる。」などを含む第2因子を「不安定な関わり」因子、「『産まなければよかった』など、存在を否定するような言葉をかける。」などを含む第3因子を「虐待的(否定的)な関わり」因子とした。

それぞれの α 係数は、第1因子.92、第2因子.91、第3因子.85であり、内部一貫性が確認された。

また、各因子の下位尺度得点と「EICA」「HEQ_A2」の各因子の下位尺度得点の間には中程度~強い相関が見られ、併存的妥当性があると考えられる。

自尊感情と子どもの親との関わり意識との関連を検討することを目的とし、「保護者の関わり意識尺度」と「HEQ_A2」のネガティブな関わり項目より作成した25項目版及び「SOBA-SET-TR」18項目を用いて近畿地方の公立中学校に通う中学生 1~3年に対し質問紙調査を行った(計442名うち有効回答414名)。

「関わり尺度」25項目の因子分析(最尤法、プロマックス回転)を行ったところ、3因子が抽出された。因子負荷量が.35未満の項目を除いた3因子で α 係数を算出した。第1因子=.91、第2因子=.80、第3因子=.71であり、十分な内部一貫性が確認された。

「SOBA-SET-TR」因子分析(最尤法、プロマックス回転)ではダミー項目は1因子、Base項目及び「友だち」の項目は2因子、他のSose項目は「運動」と「勉強」でそれぞれ別の因子に集約された。2因子の項目の合計を「Base得点」、3・4因子の3項目の合計を「Sose得点」として各下位尺度得点とし、「Base」「Sose」の平均をもとに「低群」「高群」に分け、さらに「Base」「Sose」の組み合わせを「高・高群」「高・低群」「低・高群」「低・低群」の4つのカテゴリに分けて学年との交互作用を検討するため、4×3の2要因分散分析を行った。

結果、「関わり尺度」1因子ではbase.soseカテゴリ($F(3, 373) = 6.11 p < .01$: 高・高群 > 低・高群, 低・低群: 高・低群 > 低・低群)、学年($F(2, 373) = 3.57 p < .05$: 1年生 > 3年生)それぞれの要因について有意な主効果が認められたが、交互作用は見られなかった。

2因子、「不安定な関わり」得点においても、base.soseカテゴリ($F(3, 377) = 13.28 p < .01$: 高・高群 < 低・高群, 低・低群: 高・低群 < 低・低群)、学年($F(2, 377) = 7.24 p < .01$: 1年生 < 3年生)それぞれの要因について有意な主効果が認められたが、交互作用は見られなかった。

3因子、「虐待的な関わり」得点ではbase.soseカテゴリのみ有意な主効果($F(3, 377) = 5.15 p < .01$: 高・高群 < 低・高群, 低・低群: 高・低群 < 低・高群)が認められた。

考察

base.soseカテゴリにおいて、高・高群の「関わり尺度」1因子「肯定的な関わり」得点が低・

高群及び低・低群よりも有意に高く、同様に高・低群の得点が低・低群よりも有意に高かった。すなわち、「社会的自尊感情：sose」の高低に関わりなく、「基本的自尊感情：base」の高い者ほど「肯定的な関わり」の得点が高いと言えよう。一方、高・高群と高・低群には有意な差が認められなかったが、高・低群と低・低群には有意な差があった。すなわち、「社会的自尊感情：sose」が低くても「基本的自尊感情：base」の高い者は、保護者からの関わりを肯定的に感じていることが分かる。

また、「関わり尺度」2因子「不安定な関わり」得点においても、高・高群と低・低群の間には有意差が見られず、高・低群と低・低群の得点には有意な差があった。すなわち、「社会的自尊感情：sose」が低くても「基本的自尊感情：base」の高い者は、保護者からの不安定な関わりを感じる事が少ないことが分かる。

「関わり尺度」3因子「虐待的（否定的）な関わり」得点においては、高・高群の得点が低・高群および低・低群よりも有意に低かったが、高・低群と他のカテゴリとの間には有意な差が認められなかった。「虐待的（否定的）な関わり」については、全体の平均が7.16と他の2因子に比べて低く、フロア効果の可能性も考えられるが、3因子の項目は保護者からのトラウマティックな養育について問うものであり、重要なものであると考へ、分析に加えた。

「社会的自尊感情」は高いにもかかわらず「基本的自尊感情」が低い生徒、「社会的自尊感情」は低いにもかかわらず「基本的自尊感情」が高い生徒の保護者との関わり意識については、明確な差が見られなかった。しかし、「社会的自尊感情」が低い者であっても、「基本的自尊感情」が高い者は、どちらも高い者と同じように保護者の関わりを捉えていることが明らかにされた。

主要参考文献

- 蘭千壽 (1992). 「セルフ・エスティームの形成と学校の影響」 遠藤辰雄・井上祥治・蘭千壽 (編) セルフ・エスティームの心理学 ナカニシヤ出版 pp.194 - 196.
- 井上祥治 (1992). 「セルフ・エスティームの測定法とその応用」 遠藤辰雄・井上祥治・蘭千壽 (編) (1992). セルフ・エスティームの心理学 ナカニシヤ出版 pp.26 - 36.
- 近藤卓 (2010). 自尊感情と共有体験の心理学—理論・測定・実践 金子書房
- Rosenberg, M (1965). *Society and the adolescent self-image*. Princeton, N.J. : Princeton University Press.
- Sanders B., Becker-Lausen E. (1995). The measurement of psychological maltreatment: Early data on the child abuse and trauma scale. *Child Abuse and Neglect*, 19(3), 315-23.
- 辻岡美延・山本吉広 1976 親子関係診断尺度

EICAの作成—因子的真實性の原理による項目分析 関西大学社会学部紀要, 7(2), 1-14.

Table.「保護者の関わり意識尺度」

	I	II	III
<肯定的な関わり> (α=92)			
12.ほめてくれる。	.84	.04	-.02
9.「ありがとう」と感謝してくれる。	.83	-.05	.14
6.話を真剣に聞いてくれる。	.82	-.13	.16
1.だめな所もきめて、あなたのことを愛してくれている。	.81	.24	-.08
32.たとえ勉強やスポーツのできが悪くても、あなたのことを大切に思ってくれている。	.76	.02	-.03
37.失敗した時なくさめてくれる。	.73	-.13	.10
40.何があっても、自分の味方になってくれると思う。	.71	.03	-.01
26.自分で決めたことを尊重してくれる。	.70	-.04	.15
41.この親の子どもでよかったと思う。	.68	.22	-.30
21.「おはよう」「おかえり」など、日常的に言葉をかけてくれる。	.66	.24	-.29
4.結果がよくなかったとしても、頑張ったことを認めてくれる。	.65	-.17	.16
22.あなたの親は「子どもの成長には遊びも大切だ」と思っている。	.58	-.11	.09
14.あなたの親には、安心して感情(くやしいとか、うらやましいとか、腹が立つなど)をだせる。	.45	.07	.00
<不安定な関わり> (α=91)			
15.「そんなこともできないの」など、能力を否定する言葉をかけられる。	-.02	.74	-.01
11.何もしていないのに疑われる。	-.08	.71	-.03
19.「あなたには無理」など、やってもいないうちから言われる。	-.16	.67	-.05
10.機嫌が悪いときやつあたりされる。	.05	.66	.09
17.今からしようと思っていたことについて「～しなさい」と言われる。	.12	.64	-.12
39.同じことでも機嫌によって叱られたり叱られなかったりする。	.08	.63	.10
13.無視される。	.04	.63	.14
3.親の顔色をうかがってしまう。	.09	.61	-.03
28.スポーツや勉強、性格などについて、友だちやきょうだいと比べられる。	-.08	.58	-.05
18.あなたのことにあまり関心がないと感じることがある。	-.20	.48	.17
20.家族のおとな(親や祖父母など)がよくケンカをする。	.06	.48	.10
23.「バカ」「アホ」などきたくない言葉で悪口を言われる。	-.04	.47	.22
24.なにかできても、すぐにもつとがなばるように求めてくる。	.08	.41	.00
30.頑張っても認めてくれない。	-.29	.39	.18
8.愛されていないと感じることがある。	-.14	.36	.30
<虐待的(否定的)な関わり> (α=85)			
35.家族の中にこわい人がいるので、みんなびくびくしながら生活している。	.14	-.02	.79
31.「死ね」など乱暴な言葉をかけられる。	.00	.15	.61
34.社会は信用できないと、あなたの親は思っていたり言ったりする。	-.01	.01	.59
36.「～をあげるから勉強しなさい」と言われる。	.14	.01	.58
5.「産まなければよかった」など、存在を否定するような言葉をかける。	-.04	.15	.57
33.あなたの身の回りの世話をあまりきちんとしてくれないと感じることがある。	-.13	.05	.51
38.期待にこたえられないと見捨てられそうだ。	.00	.33	.43
7.あなたの大切なものを無断で捨てる。	-.08	.26	.38
因子間相関			
I	—	-.64	-.60
II		—	0.74
III			—

主任指導教員 富永良喜
指導教員 富永良喜